

郡上農林事務所の普及活動状況

平成 31 年 2 月 28 日現在

今月の重点活動

■指導農業士 新規就農者集合研修で講話

2月1日、JAめぐみの本店で新規就農者集合研修の最終講義が開催され、郡上指導農業士会の奥村会長が「生産者の心構え」と題して講話を行った。

JAめぐみの主催の当研修は、管内の研修施設等で学ぶ研修生や就農5年目までの農業者を対象に年15回シリーズで行われ、管内3農林事務所の普及指導員等が分担して講義を行っている。

奥村会長は（有）ひるがのラファノス代表取締役として、だいこんを中心とした野菜生産や農産加工の経営を行っているが、当日は建築業から転身して農業生産法人を立ち上げた体験などを踏まえ、人間関係の大切さ、チャンスを見逃さないこと、野菜の種だけではなく将来につながる種を播くことの重要性等について話された。

農業普及課では、今後とも指導農業士の活動や新規就農者研修に対する支援を行っていく。



【郡上指導農業士会長講話】

売れるブランドづくり

■夏秋トマト 地域別懇談会を開催

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会では1月下旬と2月下旬の2回地域別懇談会を開催し、個人毎に次年度取り組む内容を確認している。

管内の夏秋トマトは収量が低下傾向にあり、昨年は豪雨や高温、台風の影響も大きく生産者間や地域毎で収量格差が拡大している。

この様ななか、農業普及課では収量の向上を図るため、個人毎に出荷状況の分析を行い低収量者には出荷日数や出荷コンテナ数といった具体的な目標を提示している。また、土壌診断結果に基づく施肥体系や出荷時期の前進化、遮光資材の活用等について助言を行っている

近年は気象の変化が大きくトマト栽培が難しい状況が続いているが栽培技術の向上や改善を図り夏秋トマト産地の支援を継続していく。



【意見交換をする部会員】

■大麦 大麦品種シュンライの現地試験を実施

郡上市八幡町・美並町・明宝では、農業法人や担い手農家が水田への転換作物として大麦を35haで栽培している。作付けしているのは「ミノリムギ」という品種で主に麦茶として加工されている。

今年度、農業普及課は郡上市美並町において「ミノリムギ」より草丈が短いため倒伏に強く成熟期が早い「シュンライ」の現地試験を行っており、定期的な生育調査により慣行品種との比較を行っている。

今のところ両品種とも、これまでの暖冬・少雨により生育は進んでいるが、「シュンライ」の方が草丈が短く葉色も濃い状況にある。

今後農業普及課では出穂期・成熟期の確認や坪刈調査などを行い、「シュンライ」の現地適合性を確認する。



【シュンライの生育調査】